

コンピアーノ (Compiano)

コンピアーノは「最も美しい村」で推薦されている人口 1000 人強の小さな村です。同時に、エミリア・ロマーニャ州のピアチェンツァとパルマがその地域の美しい城をまとめている「Castelli del Ducato」でも推薦されています。コンピアーノは、写真を見ると、本当に美しい城なのですが、パルマの南 80 キロも離れている深い山中のタロ溪谷にあるこの村へ到達する交通機関が見つからなかったために、一度は行くのをあきらめていました。しかし、経験を重ねた今、もう一度検討してみると、パルマから列車で 1 時間強にあるボルゴ・ヴァル・ディ・タロという名の駅からバスを利用して 20 分で行けることが判明して、早速出かけることにしました。

この村は城壁に囲まれていて中世の村並が今も息づいています。要するに、村の小高い位置にある城を中心に、その周りの村を城壁で取り囲み、その中を石畳の細かな路地が入り組んでいる「最も美しい村」の典型的なパターンとなっています。紀元 814 年頃、最初に城と城壁が出来たのですが、ドキュメントには、1000 年頃に、当時の領主だったマラスピーナ家からピアチェンツァにこの城を譲ったと出てきたのが最初です。ランディ家がこの城に移住して、この地域の封建領主になったのが 1258 年で、その後 452 年の長きにわたって封建領主の地位を保ちました。これは、イタリアで一番長い記録だそうです。ランディ家の相続が途絶え、この城の所有がパルマのファルネーゼ家に移ってからは刑務所に使われていたのですが、1900 年にマルキオネーゼというご婦人が個人でこの城を買い取り、城の中を刑務所からランディ家時代の状態に回復させたそうです。現在は、1,2 階の一部が博物館となっていて、ランディ家及びマルキオネーゼ婦人が住んでいた当時（1987 年まで住んでいたとのこと）の豪華な部屋（ナポレオンの部屋や中国の部屋もある）を見ることが出来ます。2 階の一部と 3 階は 4 つ星の高級ホテルとなっていて、1 泊 150 から 250 ユーロで宿泊することが出来ます。また、モナコ皇室のグリマルディス家は、グリマルディス家とランディ家の婚姻後の王子が初代の王となったことから、コンピアーノ城をモナコ皇室のルーツとして 1992 年に訪れたそうです。

ロゴレドから直通列車で、ボルゴ・ヴァル・ディ・タロ駅（直訳すると“タロ溪谷村駅”です）に着いたのは 9 時 33 分で、直ぐに駅のバールでバス・チケットを購入して、9 時 40 分発の路線バスでコンピアーノには 10 時に到着です。イタリアの田舎は、本当にきれいです。都会のように街を汚くするほどの人が住んでいないからなのでしょう。



コンピアーノ村へはバス停から丘を登ります。車の道は U 字カーブが続き距離が長いので、歩行者

用の山道を歩いて登りました。歩行者はあまりいないのでしょうか、道は荒れ放題です。それでも、10分足らずで、コンピアーノ村の入り口に到着しました。



まず、村の城壁に沿った道を歩き、丘の上からの景色を眺めます。3,4分歩くと、村で唯一の広場に到着します。この広場からは丘の下の美しい景観を望むことができます。村の広場から景色を眺めることができることも「最も美しい村」の条件の一つなのではないでしょうか。このように広場からの景観が良いところには何回も来ています。昔のイタリア人は、村を造る時から村全体のレイアウトを考えて、一番展望の良いところに広場が来るように考えているのですね。





広場から、村中のきれいな花で飾られた路地に入り、小さな丘を登ると直ぐにコンピアーノ城があります。このお城は、戦災によって、全く壊されることなく、完全な形を今に残しています。現在見ることが出来る城はほとんどが 15 世紀の建物で、一部が 17,8 世紀に拡張されたものです。



お城の中の博物館は、普段は日曜日のみオープンするのですが、偶然、7月から土日もオープンすることになって、その最初の客となってしまいました。お城の中はガイド付きのツアーで撮影は禁止です（どこのお城でも中は撮影禁止が多いのです）。他に観光客もなく、若くてお臍の見える服の可愛いお嬢さんが、マンツーマンで、しかも英語のガイドです。彼女とおしゃべりをしながら、時々ガイドを聞きながら、約 30 分のツアーでした。入場料は 7 ユーロですが、この条件なら格安です。

城の最高部は危険であるため立ち入り禁止でしたが、ここからの景色が素晴らしいので、彼女に頼んでちょっとだけ入らせてもらって、景色を撮影してきました。

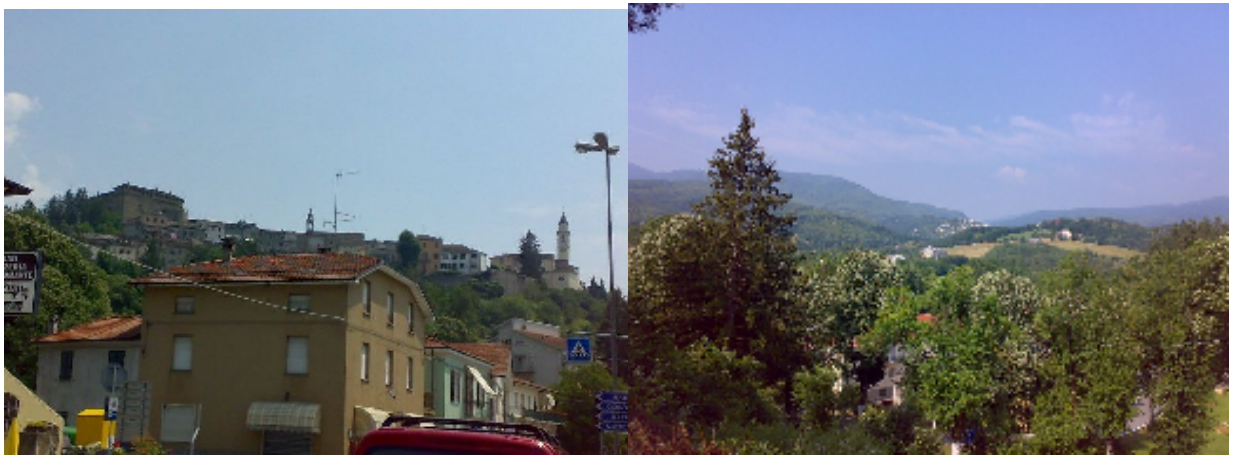
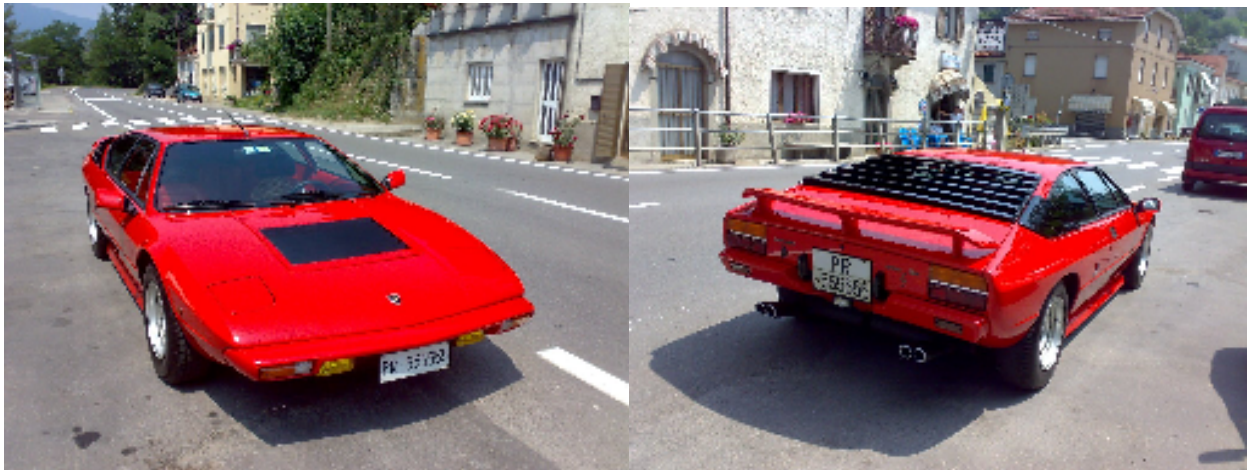


城から出てきた頃、駐車場の車が増えて、やっと観光客が来たようです。土曜日は午後からなのでね。村の中の店も、この頃から開き始めました。この村は、まだ、観光に力を入れていないようです。村の路地を歩いても静かな、花できれいに化粧をした個人の住居が続いています。



丘を降りて、帰りのバス停に着くと、そこに真っ赤なランボルギーニが停まっていた。写真を撮っていると、80歳近い老人が、若造りのシャツと金のネックレスをして颯爽と現れました。こちらからボン・ジョルノと挨拶すると、おじいさんの車の自慢話が直ぐに始まりました。イタリア語なの

で理解不能ですが、エンジンまで見せてくれました。自慢話が終わると、車に乗り込み、快音を発して、すごい勢いで去っていきました。括弧良かったですよ。ナンバーはPR 55555 です。



ロゴレド発 6 時 59 分のレジョナーレはフィデンツァ経由でピサまでの直通列車です。この列車に乗ったのは 3 度目で、いつも思うのですが、この列車からの景色は本当に素晴らしいのです。Borgo Val di Taro 駅には 9 時 33 分の定刻どおり到着し、料金は 10.4 ユーロです。駅前にはコンピアーノに行くバスが待っていました。バスは 9 時 40 分に出発して 10 時にコンピアーノの丘の下に到着 (1.65 ユーロ) です。時間のロスもほとんど無くロゴレドから 3 時間で到着しました。

戻りは、バス停の時刻表に、同じバスがパルマまで (2 時間かかります) 行くと書いてありましたので、パルマまで乗ることにしたのですが、パルマまでのバス・チケットはバスの中では購入できません。運転手さんの指示で Borgo Val di Taro 駅で一度降りて、駅のバールでパルマまでのチケット (3.9 ユーロ) を購入して、同じバスに乗り込んでパルマに向かいました。途中、フォルノーヴォでパルマの路線バスに乗り換えて、パルマには定刻に到着し、予定より 1 時間早い列車 (8.4 ユーロ) でパルマからロゴレドに戻ることが出来ました。バスの運転手さんは、すごく親切で、フォルノーヴォでも乗り換えるバスをちゃんと教えてくれましたので、間違えることはありませんでした。2 時間のバスの旅は快適で、バスから見えるタロ溪谷や周りの山々の景色は、列車からの景色と同様に素晴らしく、パルマの田舎の景色を堪能できて最高でした。